

# ニホンジカの有効活用について



兵庫県では、ニホンジカが県下に広く生息し、昭和50年代から農林業被害が急増しました。平成18年には、県内の野生鳥獣による農林業被害金額約8億円のうち、シカによるものが最も多く3億6千万円(45%)を占めました。これは、北海道、長野県に次いで全国ワースト3の金額となっています。

また、森林の下草を食べつくすことから、森林生態系への深刻な影響や、土砂の流出など防災面での影響も指摘されているほか、シカが媒介すると考えられるヤマビルやマダニ類の増加も問題化しています。

被害地の集落ではシカの侵入を防ぐため、これまで延べ2,500kmにのぼる防除柵の設置、様々な忌避剤の導入、有害捕獲や狩猟制限の緩和など様々な対策を行ってきました。しかし、被害は減らず、増えすぎたシカの数減らさない限り、根本的な解決につながらない状況となっています。

毎年、狩猟と有害捕獲を合わせて、15,000頭を超えるシカの捕獲を行っていますが、依然として生息数は増加傾向にあります。また、イノシシに比べ、食肉利用が進んでいないため、捕獲されたシカはゴミとして埋められたり燃やされたりしているのが現状です。

シカ肉は家畜の肉に比べ、高タンパク、低脂肪で脂肪酸の組織が魚に近く、鉄分が豊富であるため、栄養学的にも優れていると言われています。また、山中で季節の恵みを受けて成長しているシカは、安全な天然食材といえます。その上、味はさっぱりとしていて、どんなソースにも合わせることができ、女性に人気のジビエ料理（野生鳥獣の肉）として注目されています。

こうしたシカ肉の利用を進め、廃棄されているシカを地域資源として活用するとともに、シカの付加価値を高めることを目的として、昨年4月、丹波市にオープンした兵庫県森林動物研究センターでは「野生動物資源の有効活用プロジェクト」を推進しています。

兵庫県内におけるニホンジカの捕獲数の推移

